文化活動部会

Ⅰ．研究の概要

１．研究課題

「豊かで創造的な文化活動の日常的な教育実践についてどうあるべきか」

２．研究内容

【研究内容　１】

地域の素材を生かした教育実践

地域の人々や環境などとの関わりからつくる活動の在り方や工夫

ア　地域人材の発掘・活用や地域と連携を図った教育実践
イ　アイヌ文化に関する研修
ウ　地域の自然や施設を活用した教育実践
エ　社会教育との連携を図った教育実践

【研究内容　２】

効果的な読書活動のすすめ方

子どもたちが読書に親しむ効果的な指導や環境の工夫

ア　地域ボランティアやＰＴＡと協力した読み聞かせなどの実践や、読書指導の実践
イ　調べ学習に役立つ図書館の活用法と実習
ウ　学校図書館の運営や外部図書館との連携など、豊かな読書環境作りに取り組んだ実践

３．研究方法

（１）交流計画

部会便りの配付及びホームページによる情報の伝達をできるだけ行い，研究課題や研究内容の共通理解を図る。

（２）分科会構成

第１分科会「地域と教育活動」
第２分科会「読書活動」
第１分科会、第２分科会ともに，分科会ごとの研究協議会は開催しなかった。

（３）研究協議会の内容と方法

研究協議会では、研究課題や研究内容に沿った講演と学校レポート発表による実践交流を行う計画であったが，今年度はコロナ禍のため実施を見送った。協議会の代替として，それぞれのテーマにそった情報を部会員へ発信することと、レポートの集約を進めることとした。第１分科会は「アイヌ文化に関する内容～ウポポイについて」，第２分科会は「わたしの一冊（おすすめ本のリスト）」とコロナ禍の読書活動に関する取組について環流する。

Ⅱ．実践研究の経過と成果

１．実践研究の経過

（１）部会役員研修会による研究経過

５月２１日	第一回部会役員研修会	研究課題及び研究内容の確認について
６月２３日	第二回部会役員研修会	研究協議の内容について
７月２７日	第三回部会役員研修会	今年度の文化活動部会の活動について 部会だよりの発行
７月３０日	第四回部会役員研修会	ウポポイ（民族共生象徴空間）への訪問（白老へ）
９月１８日	第五回部会役員研修会	レポートの集約状況の確認と報告について
１１月１３日	第六回部会役員研修会	部会活動の環流にむけての集約 部会活動の成果と課題、次年度へ向けての検討

（２）部会役員研修会での研究成果

今年度は，５月～９月まで計５回の役員研修会の中で，コロナ禍での部会運営や部会内容に関わる情報発信について協議した。例年と異なる対応が求められる中，これまで積み上げてきた経験や活動を生かしながら，部会員の実践を支援する情報発信へ向けた準備を進めることができた。内容に関わっては，昨年度の反省や部会員のニーズについて検討し，役員の意見を取り入れながら，計画が立てられた。また，各分科会の担当を分担することで分業され，スムーズに業務を進めることができた。

役員研修会では，研究の視点を確認し合う中で，コロナ禍にあっても実践の歩みを止めない工夫について検討を重ねた。昨年度，アイヌ文化をテーマに据えて第１分科会と第２分科会の合同講演会を計画したことをふまえ，今年度オープンしたばかりの「ウポポイ（民族共生象徴空間）」を役員が実際に訪れてレポートにまとめ，情報を発信した。読書活動に関わっては，例年９月の研究協議会で配付している「わたしの一冊」を，７月に部会員へ届けることができた。

今年度は研究協議会の開催が見送られたが，次年度以降の実技講習会や講演の方向性は，これまでの経緯や反省，部会員からの声を拾い上げて，ある程度前年度のうちに明らかにしておく必要がある。講師の選定については，できるだけ早い段階で探して依頼せねばならず，外部機関の活用も検討していきたい。

２．課題部会内での交流

（１） 課題部会内での交流内容

①「ウポポイ（民族共生象徴空間）」のレポートについて

（第１分科会「地域と教育活動」）

７月３０日（午後日程で訪問）は，「慰霊施設」以外（クマの目撃情報のため閉鎖），ほとんどの施設を見学することができた。施設内は大変充実しており，見学・体験を行うことができる場所は多くある。

入退場ゲートのすぐそばにある「国立アイヌ民族博物館」は，アイヌの歴史や文化について学ぶシアター（１階）とテーマ別になっている基本展示室（２階）があり，時間に限りがある場合でもテーマごとの概要を知ることができるようになっている。展示方法も工夫されており，ジオラマ、模型、タマサイ（首飾り）や動物の立体パズルなど，実際に触れて学ぶコーナーもある。現在は触れることはできないが，アイヌ文化を身近に感じることができそうだ。

ただし，それぞれの展示に詳しい説明がついている分，事前の学習がないと子どもたちは難しく感じるかもしれない。テーマを絞って見学するなどの配慮が必要だと感じた。また、後述する「体験交流ホール」で上映されている，アイヌに伝わる２種類の物語（短編映像）を先に観てから，「国立アイヌ民族博物館」を利用すると，文化や歴史についてより理解できるかもしれない。

「体験交流ホール」では，伝統芸能の上演とアイヌの物語「カムイ ユカラ」の上映を行っている。伝統芸能では，アイヌの踊りや語りである「シノッ」と、アイヌのいのりである「イノミ」について見ることができる。「カムイ ユカラ」は，アイヌの人々の神様に対する考え方や接し方，暮らしぶりを知ることができる。今回は，「カムイを射止めた男の子」と「キツネに捕まった日の神」の２つの物語を見ることができた。所要時間は３０分である。

「体験学習館」では，３つの体験ができる。現在は会場に入れる人数が限られているため，体験したものを決めてから，時間帯を考えて利用するとよい。感染症予防策として，開催終了ごとに消毒作業を行っていた。体験内容は，「楽器演奏鑑賞」（ムックリとトンコリの生演奏。所要時間は１０～１５分）、「ポン劇場」（オリジナルの紙人形劇を通したアイヌに伝わる物語の紹介や，おとぎ話のアイヌ語版読み聞かせ。所要時間は１０分），「ドーム型スクリーン映像体験『カムイ　アイズ』」（北海道の自然を，カムイである鷹やキツネの視点で駆け抜ける，爽快なパノラマ映像体験。所要時間１０分）である。

「工房」では，マキリ（小刀）を活用した木彫の様子や，チセで使われるゴザを織る様子が紹介されていた。座って解説を聞けるようになっており，手仕事の様子はモニターで見やすく映し出されていた。現在は，実演見学のみで、入場制限もある。所要時間は１０分程度である。

「伝統的コタン」では，屋外ステージでアイヌの歌と踊り，狩猟で用いた仕掛け弓の実演と解説を行っていた。立ち見も可能で，マイクで音や声がよく聞こえた。また，「チセ」の内部見学もでき，アイヌの人々の考え方に触れることができる。

②成果と課題

「ウポポイレポート」の発信にあたり，貴重な展示内容から児童生徒が主体的に学ぶためには，「アイヌについての事前学習が必須である」と広く伝えることが課題だと感じた。「カムイ（神）は自然の動植物や水や火などに姿を変え，人間（アイヌ）に恵みを与えてくれる」「文字による記録ではなく，口承であった」「イオマンテ（熊送りの儀式）があった」など，最低限のアイヌについての知識が必要であると考える。部会でも，引き続き実技や理論研修会を企画し，多くの先生方と学び合う場をつくっていきたい。

学校での事前学習資料として，公益財団法人アイヌ民族文化財団が発行している『アイヌ民族：歴史と現在』をQR コード付で紹介した。さらに，施設を自主研修の場とする案についても提言した。

③コロナ禍の読書活動について（第２分科会「読書活動」）

コロナ禍における各校での読書活動の様子について，部会員それぞれの立場からの意見を集約した（回答数４５）。

学校図書館活動に関わっては，密をさけるために利用割り当てを決めている学校がほとんどで，貸し出し制限や手洗い時間などのために，思うような活動に取り組めない現状にある。感染予防策として，カウンターにビニールカーテンをはったり，閲覧机にパーテーションをおいたりと、できることに取り組んでいる学校もある。返却後の本の消毒作業、室内の消毒作業などにも時間をとられ，感染予防対策をどこまでやったらいいのか，悩むところである。

読み聞かせについては，子どもたちを近くに集めて読むことができない中で，工夫をしながら行っている実践が多く寄せられた。大型絵本での読み聞かせや,実物投影機やプロジェクターに映し出しての読み聞かせなど，不便を

感じながらも，子どもたちと本の世界を楽しみたいという熱い声に勇気をいただいた。これまで継続してきたボランティアの方による読み聞かせの火を消さないことが今後の課題となろう。

④成果と課題

コロナ禍の読書活動に関わるアンケートから、学校図書館を活用するための苦労や読み聞かせの工夫が見えてきた。アンケート結果については，部会だよりやＨＰを活用し，環流した。孤軍奮闘されている先生方が課題を共有し，今後はより具体的な読書活動の実践について情報を収集していく必要がある。

「わたしの一冊」については，読み聞かせにおすすめの本，教科指導で取り上げたい本（道徳・国語科・総合的な学習の時間など）と、多種多様なブックリストに仕上がった。部会員にプリントアウトしたリストを配付したので、ぜひ広く活用してほしい。

◆石教研課題部会「文化活動」～第2分科会 読書活動～

2020年7月発行

2019年度 分科会交流 ～研究協議会の参加者より寄せられた「わたしの一冊」より～ 配布資料

おすすめ本	書名・著者・出版社	おススメポイント	おすすめ本	書名・著者・出版社	おススメポイント
	あたまげんさ どこどこ 吉川英彦 鈴人社	幼稚園の子どもが喜ん絵がなくなったときに、夢中になって読んでいます。		**あめだま** ベク・ヒナ ブロンズ新社	一緒授業にもおっていて、ラストはの迫力くるのます。
	いいにおいのおくりものうるあとこ ジル・ビズエルヌ ロクリン社	子どもたちが喜びそうです。		**僕たちワンドゥードル最後の一匹** ドリシー・アンドリュース 小学館	中学生の時に初めて出会い、以来何度も読み直しているあます。動物語のファンタジーでは珍く、自分でどうにかめそう度ファンタジーなどころが気に入っています。
	いのちのまつり（ヌチヌグスージ） 草場一壽 サンマーク出版	いのちのつながりについて考えるこの本、大きくながるページがなどの気持ちをつかみます。		**いろいろ あんせん** ますだゆうこ そうえん社	「すんだかすん、すんだかすん？」リズムとのけで楽しいいろとりどりの覚者が！！わくわくドキドキのおんせんへ！
	光の輪 浜谷健次郎 角川書店	自分が教師をめざすきっかけとなったあます。		**うちの火星人** 平岡敏之 光文社	5人全員発言課がいい教師を守るための「教師物語書」（コママンガでわかりやすい。
	うんこのたつじん みずうちきくお ポプラ	失敗してしまったときの先生が言ってくれる言葉の先生が素晴らしかったです。		**おおきな木** シルヴァスタイン 篠崎書林	デザインと本の配色がとりが好きです。
	おかえし 柏山桂子 福音館	お引越しを機にいろいろなお話しをしていく。子どもたちが文章を絵の通しの出せてくるあます。		**おこだでませんように** くすのきしげのり 小学館	母様に読ける本です。（母親編へ）
	大人問題 五味太郎 講談社文庫	中学生の時に一度はいろいろ考えることを考えるきっかけとなった一冊。		**おなかのなかで** 長野 牛 教育画劇	何度はなくまに絵って何度読めました。クスッ日の絵から一気に引き込まれます。動物たちのやさしさとシュールな絵等が大好きなので選びました。

Ⅲ．部会研究の成果と課題

１．成果

今年度は，２年継続研究の２年次目となる予定であったが，感染症対策を考慮し，３年次研究の２年次目として研究を進めていくこととなった。これまでの部会研究で積み上げてきたことをもとに，研究内容を検討した。

「地域と教育活動」について研究する第１分科会では，今年度オープンした「ウポポイ（民族共生象徴空間）」を取り上げた。修学旅行で訪問する学校があると聞き，これまでアイヌ文化について学び合ってきた経験から，見学計画を立てるための留意点や施設の魅力を発信することができた。実際に役員が訪問して感じたこと・わかったことをレポートにまとめ，それについてのアンケートも部会員から寄せてもらった。部会員の声は，３年次目の研究へ向けての手がかりとしたい。

「読書活動」について研究する第２分科会では，コロナ禍の影響を受けながらも，工夫しながら読書活動に取り組む先生方を支援する情報発信がしたいと考えた。例年，研究協議会ではおすすめの本を１冊持参してもらい，自己紹介で活用してもらっている。例年「わたしの一冊」は、新旧取り混ぜたブックリストとして多くの先生方に活用してもらっている。今年度も８０冊の情報が，ブックリストの作成ができたことは大きな成果であった。学校図書館が思うように活用できないもどかしさを抱えた中だが，子どもたちと共に楽しむ本の世界の魅力を部会員と共有したい。

２．課題

文化活動部会では，これからも部会員が積み上げてきた実践を互いに学ぶ合うことを軸に，体験的・実践的な活動を取り入れた研究協議会を企画していきたいと考える。管内における特色ある取組を交流していくことは，大変意義深い。今年は，コロナ禍のため研究協議会が開催できなかったが、子どもたちのいきいきとした活動の様子や，地域人材との連携，思考錯誤を重ねながらつくり上げた実践は，部会員の大きな学びや支えとなる。これからも部会の財産として共有し、蓄積していきたい。それぞれの学校ごとによい取組がなされている。それを分科会ごとだけでなく，部会全体に環流することが大切であると考える。そのために，レポートをどのように活用していくかが課題であると考える。また，ほかの分科会で交流した内容について紹介し，実践できるようにしていくことも大切である。そのための方法について，ＨＰや部会便りを活用していく必要がある。

（文責　飯坂　直子）